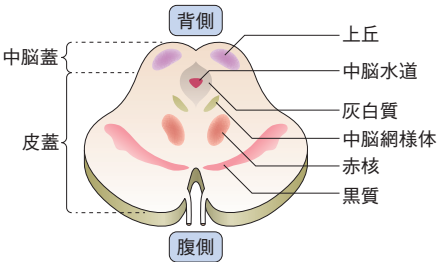
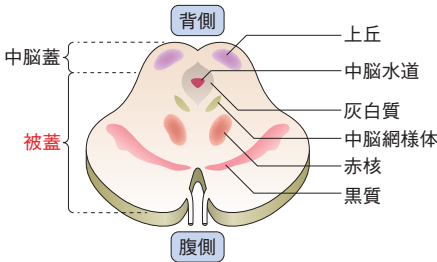
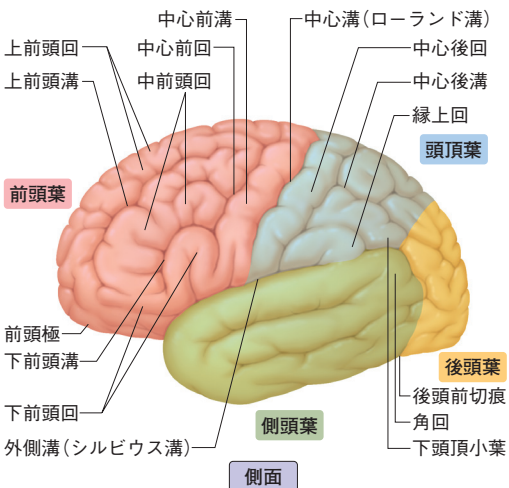
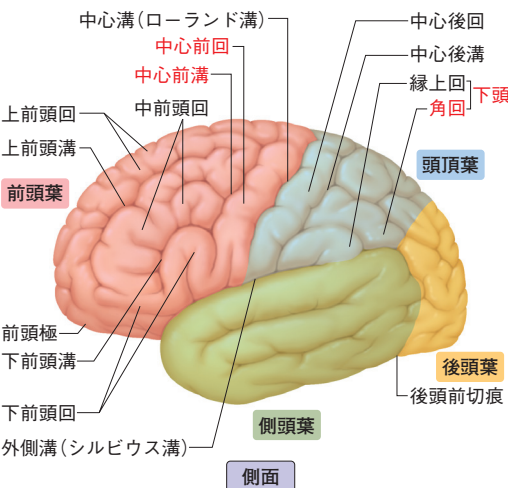


お詫びと訂正

このたびは『公認心理師必携テキスト』をご購入いただき、誠にありがとうございます。本書の初版第1刷（2018年4月25日）から初版第4刷（2018年5月29日）において、下記の箇所にて誤りがございました。読者の皆様ならびに関係各位にご迷惑をおかけしたことを謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに訂正させていただきます。

2018年4月25日作成
2018年9月5日更新

更新履歴	
2018年4月25日	作成（初版第1刷）
2018年5月14日	p.585 下から8行目、p.590 下から7行目（初版第1～2刷）追加
2018年5月18日	p.90 下から2行目、p.110 上から10行目、p.254 表2、p.257 上から6行目、p.421 図4 タイトル（初版第1～2刷）追加
2018年5月25日	p.167 上から7行目、p.205 下から4行目・3行目、p.276 下から13行目、p.284 表1、p.387 上から7行目、p.541 上から17行目（初版第1～3刷）追加
2018年5月29日	p.491 上から12行目（初版第1～4刷）追加
2018年6月11日	p.170 下から9行目、p.216 上から2行目、p.510 上から9行目（初刷第1～4刷）追加
2018年6月22日	p.215 図2、p.323 下から1行目、p.345 表1、p.421 下から6行目、p.451 上から1行目（初刷第1～4刷）追加
2018年7月20日	p.206 図4、p.213 図1（初刷第1～4刷）追加
2018年7月26日	p.332 用語解説、p.594 下から4行目・3行目（初刷第1～4刷）追加
2018年8月3日	p.515 下から2行目（初刷第1～4刷）追加
2018年8月6日	p.403 上から11行目、p.404 表1、p.595 表5（初刷第1～4刷）追加
2018年8月9日	p.517 下から6行目（初刷第1～4刷）追加
2018年8月21日	p.345 表1、p.368 上から10行目、p.586 上から9行目（初刷第1～4刷）追加
2018年8月28日	訂正用図表追加
2018年8月30日	p.438 図2、p.516 上から3行目、p.544 下から7行目、下から1行目（初刷第1～4刷）追加
2018年9月5日	p.585 上から2行目、p.596 表6（初刷第1～4刷）追加

刷数	訂正箇所	誤	正
1,2	p.90 下から2行目	3段階から校正	4段階から構成
1	p.110 上から10行目	有意確率 (α)	有意水準 (α)
1,2,3,4	p.170 下から9行目	1 発達性ディスクレシア	1 発達性ディスレクシア
1,2,3	p.167 上から7行目	再近接発達領域	最近接発達領域
1,2,3	p.205 下から4行目	交感神経	副交感神経
1,2,3	p.205 下から3行目	副交感神経	交感神経
1,2,3,4	p.206 図4	IV 動眼神経 VII 舌下神経	III 動眼神経 XII 舌下神経
1,2,3,4	p.213 図1 (凡例)		
1,2,3,4	p.213 図1 (中脳の構造)		
1,2,3,4	p.215 図2		

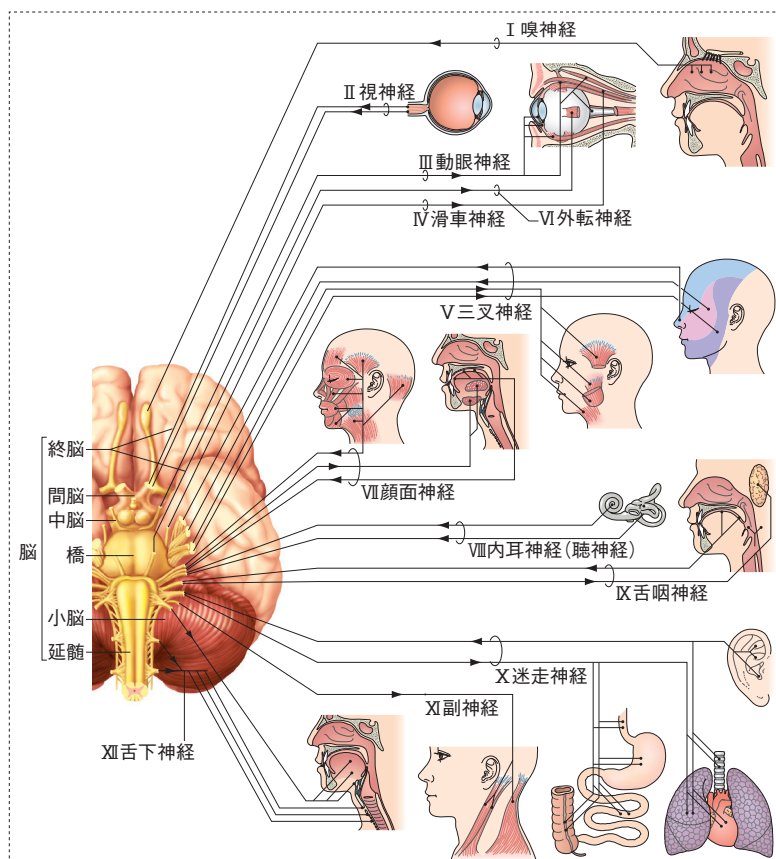
刷数	訂正箇所		誤	正																																																																						
1,2,3,4	p.216	上から 2 行目	中心溝の前部は中心溝回，後部は中心溝回と呼ばれ，	中心溝の前部は 中心前回 ，後部は 中心後回 と呼ばれ，																																																																						
1,2	p.254	表 2	世代継承性（generatirity）	世代継承性（ generativity ）																																																																						
1	p.257	上から 6 行目	積極的に寛容	積極的に 関与																																																																						
1,2,3	p.276	下から 13 行目	バルテ	バルテ ス																																																																						
1,2,3	p.284	表 1	<table><caption>表 1 障害者・障害児の数(推計値)</caption><tr><th></th><th>総数</th><th>在宅者</th><th>施設入所者</th></tr><tr><td>身体障害者・障害児(2011 年)</td><td>392.2 万人</td><td>386.4 万人</td><td>5.8 万人</td></tr><tr><td>身体障害者・障害児(2011 年)</td><td>74.1 万人</td><td>62.2 万人</td><td>11.9 万人</td></tr><tr><th></th><th>総数</th><th>外来患者</th><th>入院患者</th></tr><tr><td>身体障害者・障害児(2014 年)</td><td>392.4 万人</td><td>361.1 万人</td><td>31.3 万人</td></tr></table> 文献 5)を参考に作成		総数	在宅者	施設入所者	身体障害者・障害児(2011 年)	392.2 万人	386.4 万人	5.8 万人	身体障害者・障害児(2011 年)	74.1 万人	62.2 万人	11.9 万人		総数	外来患者	入院患者	身体障害者・障害児(2014 年)	392.4 万人	361.1 万人	31.3 万人	<table><caption>表 1 障害者・障害児の数(推計値)</caption><tr><th></th><th>総数</th><th>在宅者</th><th>施設入所者</th></tr><tr><td>身体障害者・障害児(2011 年)</td><td>392.2 万人</td><td>386.4 万人</td><td>5.8 万人</td></tr><tr><td>知的障害者・障害児(2011 年)</td><td>74.1 万人</td><td>62.2 万人</td><td>11.9 万人</td></tr><tr><th></th><th>総数</th><th>外来患者</th><th>入院患者</th></tr><tr><td>精神障害者・障害児(2014 年)</td><td>392.4 万人</td><td>361.1 万人</td><td>31.3 万人</td></tr></table> 文献 5)を参考に作成		総数	在宅者	施設入所者	身体障害者・障害児(2011 年)	392.2 万人	386.4 万人	5.8 万人	知的障害者・障害児 (2011 年)	74.1 万人	62.2 万人	11.9 万人		総数	外来患者	入院患者	精神障害者・障害児 (2014 年)	392.4 万人	361.1 万人	31.3 万人																														
	総数	在宅者	施設入所者																																																																							
身体障害者・障害児(2011 年)	392.2 万人	386.4 万人	5.8 万人																																																																							
身体障害者・障害児(2011 年)	74.1 万人	62.2 万人	11.9 万人																																																																							
	総数	外来患者	入院患者																																																																							
身体障害者・障害児(2014 年)	392.4 万人	361.1 万人	31.3 万人																																																																							
	総数	在宅者	施設入所者																																																																							
身体障害者・障害児(2011 年)	392.2 万人	386.4 万人	5.8 万人																																																																							
知的障害者・障害児 (2011 年)	74.1 万人	62.2 万人	11.9 万人																																																																							
	総数	外来患者	入院患者																																																																							
精神障害者・障害児 (2014 年)	392.4 万人	361.1 万人	31.3 万人																																																																							
1,2,3,4	p.323	下から 3 行目	学校，職場，過程など，	学校，職場， 家庭 など，																																																																						
1,2,3,4	p.332	用語解説 ＊ 2 母子並行面接	発達段階から次の発達段階への移行について，明確に線引きすることはできないという特徴がある．	子どもと親とが，それぞれ別の担当者と同時並行的に心理面接を行うこと，父親やそのほかの養育者の場合もあるが，これまでは圧倒的に母親が多かったため，このようによばれる．親面接の目的は，子どもの治療関係の維持，情報収集，治療への協力，親子関係を含む環境調整などである．																																																																						
1,2,3,4	p.345	表 1	<table><caption>表 1 変化のステージ・レベルと治療システムの統合</caption><tr><th>レベル/ステージ 症状 / 状況</th><th>前熟考期</th><th>熟考期</th><th>準備期</th><th>実行期</th><th>維持期</th></tr><tr><td rowspan="2">不適切な認知</td><td colspan="5">動機づけ面接 行動療法 アドラー派療法 EMDR および曝露 論理情動療法 認知療法</td></tr><tr><td colspan="5"></td></tr><tr><td>対人関係の葛藤</td><td>対人関係精神分析</td><td>交流分析</td><td colspan="3">対人関係療法 (IPT)</td></tr><tr><td>家族システムの葛藤</td><td>戦略的家族療法</td><td colspan="2">ボーエン(世代間境界)派療法</td><td colspan="2">構成主義的療法</td></tr><tr><td>個人内葛藤</td><td>精神分析的療法</td><td>実存療法</td><td colspan="3">ゲシュタルト療法</td></tr></table> 文献5)を参照に作成	レベル/ステージ 症状 / 状況	前熟考期	熟考期	準備期	実行期	維持期	不適切な認知	動機づけ面接 行動療法 アドラー派療法 EMDR および曝露 論理情動療法 認知療法										対人関係の葛藤	対人関係精神分析	交流分析	対人関係療法 (IPT)			家族システムの葛藤	戦略的家族療法	ボーエン(世代間境界)派療法		構成主義的療法		個人内葛藤	精神分析的療法	実存療法	ゲシュタルト療法			<table><caption>表 1 変化のステージ・レベルと治療システムの統合</caption><tr><th>レベル/ステージ 症状 / 状況</th><th>前熟考期</th><th>熟考期</th><th>準備期</th><th>実行期</th><th>維持期</th></tr><tr><td rowspan="2">不適切な認知</td><td colspan="5">動機づけ面接 行動療法 アドラー派療法 EMDR および曝露 論理情動療法 認知療法</td></tr><tr><td colspan="5"></td></tr><tr><td>対人関係の葛藤</td><td>対人関係精神分析</td><td>交流分析</td><td colspan="3">対人関係療法 (IPT)</td></tr><tr><td>家族システムの葛藤</td><td>戦略的家族療法</td><td colspan="2">ボーエン(多世代)派療法</td><td colspan="2">構造派家族療法</td></tr><tr><td>個人内葛藤</td><td>精神分析的療法</td><td>実存療法</td><td colspan="3">ゲシュタルト療法</td></tr></table> 文献 5)を参照に作成	レベル/ステージ 症状 / 状況	前熟考期	熟考期	準備期	実行期	維持期	不適切な認知	動機づけ面接 行動療法 アドラー派療法 EMDR および曝露 論理情動療法 認知療法										対人関係の葛藤	対人関係精神分析	交流分析	対人関係療法 (IPT)			家族システムの葛藤	戦略的家族療法	ボーエン(多世代)派療法		構造派家族療法		個人内葛藤	精神分析的療法	実存療法	ゲシュタルト療法		
レベル/ステージ 症状 / 状況	前熟考期	熟考期	準備期	実行期	維持期																																																																					
不適切な認知	動機づけ面接 行動療法 アドラー派療法 EMDR および曝露 論理情動療法 認知療法																																																																									
対人関係の葛藤	対人関係精神分析	交流分析	対人関係療法 (IPT)																																																																							
家族システムの葛藤	戦略的家族療法	ボーエン(世代間境界)派療法		構成主義的療法																																																																						
個人内葛藤	精神分析的療法	実存療法	ゲシュタルト療法																																																																							
レベル/ステージ 症状 / 状況	前熟考期	熟考期	準備期	実行期	維持期																																																																					
不適切な認知	動機づけ面接 行動療法 アドラー派療法 EMDR および曝露 論理情動療法 認知療法																																																																									
対人関係の葛藤	対人関係精神分析	交流分析	対人関係療法 (IPT)																																																																							
家族システムの葛藤	戦略的家族療法	ボーエン(多世代)派療法		構造派家族療法																																																																						
個人内葛藤	精神分析的療法	実存療法	ゲシュタルト療法																																																																							
1,2,3,4	p.368	上から 10 行目	一般適応反応期	抵抗期																																																																						
1,2,3	p.387	上から 7 行目	産業保険従事者	産業 保健 従事者																																																																						
1,2,3,4	p.403	上から 11 行目	聴覚言語療法士	言語聴覚士																																																																						
1,2,3,4	p.404	表 1	聴覚・言語療法士	言語聴覚士																																																																						
1,2	p.421	図 4 タイトル	オレンジバンド	オレンジリング																																																																						
1,2,3,4	p.421	下から 6 行目	オレンジバンド運動	オレンジリング運動																																																																						
1,2,3,4	p.438	図 2(検察庁の横，逆送された事件)	受理	起訴																																																																						
1,2,3,4	p.451	上から 1 行目	(ADR：alternative dispute resolution)	(ADR： alternative dispute resolution)																																																																						
1,2,3,4	p.491	上から 12 行目	うつ病は男性の方が女性より多く	うつ病は 女性 の方が 男性 より多く																																																																						
1,2,3,4	p.510	上から 9 行目	①成年被後見人または補佐人	②成年被後見人または 被保佐人																																																																						
1,2,3,4	p.515	下から 2 行目	有することなどであり，そのいずれかに該当しなければならない．	有することなどであり，その いずれにも 該当しなければならない．																																																																						
1,2,3,4	p.516	上から 3 行目	第 2 に，措置入院である(第 22 条)．	第 2 に，措置入院である(第 29 条以下)																																																																						
1,2,3,4	p.517	下から 6 行目	成立し，2004 (平成 16) 年 10 月から施行された．	成立し， 2005 (平成 17) 年 [なお一部は 2004 (平成 16) 年 10 月] から施行された．																																																																						
1,2,3	p.541	上から 17 行目	(非行少年)	(犯罪 少年)																																																																						
1,2,3,4	p.544	下から 7 行目	性犯罪者への保護が，	性犯罪 被害者 への保護が，																																																																						
1,2,3,4	p.544	下から 1 行目	男性器を女性器に挿入することであり，肛門や口腔に挿入する行為まで，処罰範囲が広げられた．男性器をそれらの場所に入れさせられることも想定している．旧強姦罪では，男性が犯罪者で女性が被害者という構図がとられていたが，強制性交等罪では，男性も女性も犯罪者となりうるし，男性も女性も被害者となりうることとなっている．	男性器を 膣や肛門，口腔へ入れる行為である ．旧強姦罪では 男性が自らの性器を膣へ挿入することのみが処罰対象とされていたが，新設の強制性交等罪においては，女性がそれらの性交を男性にさせる場合も処罰対象となる．さらに，男性間において強制性交が行われた場合においても本罪は成立する．																																																																						
1,2,3,4	p.585	上から 2 行目	(オタワ憲章，1896)	(オタワ憲章， 1986 年)																																																																						
1,2	p.585	下から 8 行目	たとえば，学校におけるメンタルヘルスリテラシー教育(メンタルヘルスを高めるための基礎教育)や企業組織におけるストレス・マネジメント研修などは第一次予防に該当し，学校や職場の健康診断や労働者 100 人以上の事業所で実施されるストレスチェックは第二次予防に該当する．	たとえば，学校におけるメンタルヘルスリテラシー教育(メンタルヘルスを高めるための基礎教育)や企業組織におけるストレス・マネジメント研修， また，労働者 50 人以上の事業所で実施されるストレスチェックは第一次予防を目指して行われる．なお，学校や職場の健康診断は第二次予防に該当する．																																																																						
1,2,3,4	p.586	上から 9 行目	指示的(個人的)予防は，すでに健康を害している(発症している)人への予防をさす ²⁾ ．	指示的(個人的)予防は，すでに健康を害している(発症している)人 に対し，その状態から別の問題が発生しないことを目指した 予防をさす ²⁾ ．																																																																						

刷数	訂正箇所		誤	正				
1,2	p.590	下から 7 行目	労働者 100 人以上の組織では	労働者 50 人以上の組織では				
1,2,3,4	p.594	下から 4 行目	幼少期	幼年期				
1,2,3,4	p.594	下から 3 行目	更年期	高年期				
1,2,3,4	p.595	表 5	(発達段階) 幼少期 (特徴) 人生の完成期、廊下	(発達段階) 幼年期 (特徴) 人生の完成期、老化				
1,2,3,4	p.596	表 6	Ⅱ. 早期児童期（幼児期） Ⅲ. 遊技期（幼児前期）	Ⅱ. 幼児前期 Ⅲ. 遊戯期（幼児後期）				
1	p.610	事例問題 7 の 正答番号	【1】	【3】				
1	p.621	付録 出題基準 対照表 12 (4)	<table><tr><td>(4) 非定型発達</td><td> ・ 平均寿命(280)、健康寿命(280)、加齢のメカニズム(280) ・ 加齢による心身機能の変化(278) ・ 社会的離脱(278)、活動持続(278)、補償を伴う選択的最適化(278) ・ 喪失と悲嘆(276)、独居・孤独(276)、社会的サポート(ソーシャルコンボイ)(276) ・ 認知症(278)、日常生活動作(ADL)(278)、介護(280)、被介護(280) ・ 生活の質(quality of life(QOL))(584)、ウェルビーイング(584)、エイジングパラドクス(278) ・ サクセスフルエイジング(280)(高齢者就労[280]、社会的参加[280]) </td></tr></table>	(4) 非定型発達	・ 平均寿命(280)、健康寿命(280)、加齢のメカニズム(280) ・ 加齢による心身機能の変化(278) ・ 社会的離脱(278)、活動持続(278)、補償を伴う選択的最適化(278) ・ 喪失と悲嘆(276)、独居・孤独(276)、社会的サポート(ソーシャルコンボイ)(276) ・ 認知症(278)、日常生活動作(ADL)(278)、介護(280)、被介護(280) ・ 生活の質(quality of life(QOL))(584)、ウェルビーイング(584)、エイジングパラドクス(278) ・ サクセスフルエイジング(280)(高齢者就労[280]、社会的参加[280])	<table><tr><td>(4) 非定型発達</td><td> ・ 神経発達症群／神経発達障害群(271) ・ 自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害(ASD)(271) ・ 注意欠如多動症／注意欠如多動性障害(AD/HD)(273) ・ 限局性学習症／限局性学習障害(SLD)(271) ・ 発達性協調運動症／発達性協調運動障害(275) ・ Asperger 症候群(274) ・ 知的能力障害(271) ・ アタッチメント障害(275) ・ 早産、低出生体重児(275) ・ 成長障害(FTT)(器質性、非器質性)(275) ・ 非定型発達に対する介入及び支援(271) </td></tr></table>	(4) 非定型発達	・ 神経発達症群／神経発達障害群(271) ・ 自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害(ASD)(271) ・ 注意欠如多動症／注意欠如多動性障害(AD/HD)(273) ・ 限局性学習症／限局性学習障害(SLD)(271) ・ 発達性協調運動症／発達性協調運動障害(275) ・ Asperger 症候群(274) ・ 知的能力障害(271) ・ アタッチメント障害(275) ・ 早産、低出生体重児(275) ・ 成長障害(FTT)(器質性、非器質性)(275) ・ 非定型発達に対する介入及び支援(271)
(4) 非定型発達	・ 平均寿命(280)、健康寿命(280)、加齢のメカニズム(280) ・ 加齢による心身機能の変化(278) ・ 社会的離脱(278)、活動持続(278)、補償を伴う選択的最適化(278) ・ 喪失と悲嘆(276)、独居・孤独(276)、社会的サポート(ソーシャルコンボイ)(276) ・ 認知症(278)、日常生活動作(ADL)(278)、介護(280)、被介護(280) ・ 生活の質(quality of life(QOL))(584)、ウェルビーイング(584)、エイジングパラドクス(278) ・ サクセスフルエイジング(280)(高齢者就労[280]、社会的参加[280])							
(4) 非定型発達	・ 神経発達症群／神経発達障害群(271) ・ 自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害(ASD)(271) ・ 注意欠如多動症／注意欠如多動性障害(AD/HD)(273) ・ 限局性学習症／限局性学習障害(SLD)(271) ・ 発達性協調運動症／発達性協調運動障害(275) ・ Asperger 症候群(274) ・ 知的能力障害(271) ・ アタッチメント障害(275) ・ 早産、低出生体重児(275) ・ 成長障害(FTT)(器質性、非器質性)(275) ・ 非定型発達に対する介入及び支援(271)							

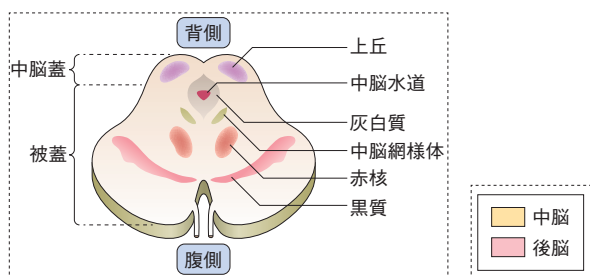
訂正用図表

A4サイズ・カラーでプリントアウトのうえ、切り取り線()にそって切り抜き、該当箇所にお貼りください。

206 ページ 図4 脳神経の分類 (初版第1～4刷正誤表2018年7月20日掲載)



213 ページ 図1 後脳と中脳の構造 (初版第1～4刷正誤表2018年7月20日掲載)



215 ページ 図2 前脳の構造 (初版第1～4刷正誤表2018年6月22日掲載)

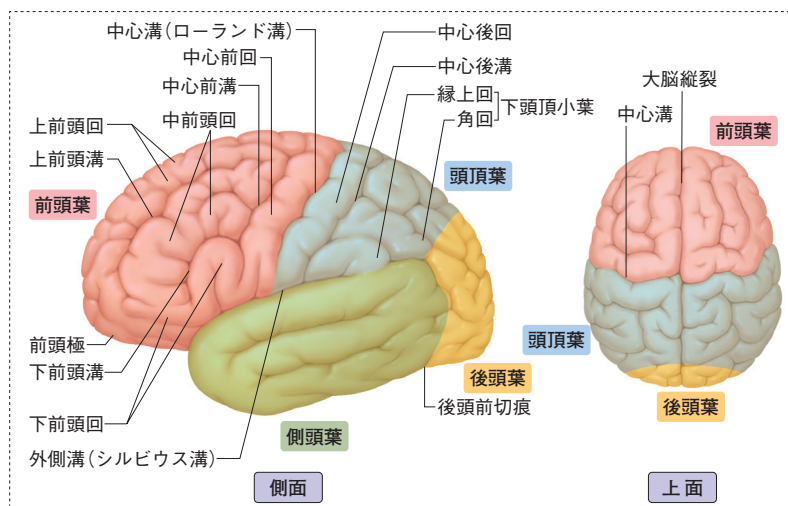


表2 エリクソンの発達段階			
発達段階	危機(発達課題)	活力(徳)	内 容
乳児期	基本的信頼 VS 不信	希望	・一貫性, 連続性, 類同性の経験が信頼に導く ・不適切, 非一貫性または否定的な養育が不信を招く
幼児前期	自律性 VS 恥・疑惑	意志	・自分のペース・やり方で技能を試す機会が自律性に導く ・過保護または援助の欠如が自己や環境の統制能力に疑問を抱かせる
幼児後期 (遊戯期)	自発性 VS 罪悪感	決意	・活動の自由と疑問に答える親の忍耐が自発性に導く ・活動の抑制と疑問を無意味と扱うことが罪悪感を招く
学齢期 (思春期)	勤勉性 VS 劣等感	有能感	・ことを成すことが許され, 達成を褒めることが勤勉性に導く ・活動の制限と行いの批判が劣等感を招く
青年期	同一性 VS 同一性の 拡散	忠誠	・状況や人物が異なる際の人格の連続性と類同性の再認識が同一性に導く ・安定性(特に性役割や職業選択)を確立できないことが役割の混乱を招く
初期 成人期	親密性 VS 孤独	愛	・他者との同一性の融合が親密性に導く ・他者との競争的, 闘争的な関係が孤立を招く
成人期	世代性 VS 停滞	世話	・次世代の基礎を固め導くことが世代継承性(generativity)を生み出す ・自己への優先的な関心が停滞を招く
高齢期	自己統合 VS 絶望	英知	・人生の受容が統合感に導く ・逃した機会を取り戻すには遅すぎるという感情が絶望を招く

文献 5)を参考に作成

表1 障害者・障害児の数(推計値)			
	総数	在宅者	施設入所者
身体障害者・障害児(2011 年)	392.2 万人	386.4 万人	5.8 万人
知的障害者・障害児(2011 年)	74.1 万人	62.2 万人	11.9 万人
	総数	外来患者	入院患者
精神障害者・障害児(2014 年)	392.4 万人	361.1 万人	31.3 万人

文献 5)を参考に作成

表1 変化のステージ・レベルと治療システムの統合					
レベル/ステージ 症状 / 状況	前熟考期	熟考期	準備期	実行期	維持期
不適切な認知	動機づけ面接 行動療法 アドラー派療法 EMDR および曝露 論理情動療法 認知療法				
対人関係の葛藤	対人関係精神分析	交流分析	対人関係療法(IPT)		
家族システムの 葛藤	戦略的家族療法	ボーエン(多世代)派療法			構造派家族療法
個人内葛藤	精神分析的療法	実存療法	ゲシュタルト療法		

文献 5)を参照に作成

表 1 福祉分野における業務とそれを担う専門職			
主たる業務	職種	活躍分野	支援の主な視点
相談業務 マネジメント	社会福祉士	福祉分野全般	人と環境の相互作用の調整
	精神保健福祉士	精神保健福祉分野	
	ケアマネジャー (介護支援専門員)	高齢者福祉	要介護高齢者の生活(QOL, ADL)の維持と介護サービスのマネジメント
生活支援	介護福祉士	高齢者福祉 障害者福祉	高齢者、または障害者の生活の支援と維持
	保育士	児童福祉 障害者福祉	子ども、障害者の生活と発達の支援
医療支援	医師	医療分野	疾病などからの回復
	看護師		医療の生活支援も含む
	保健師		疾病の予防
	薬剤師		薬剤管理
リハビリテーション	理学療法士	高齢者福祉 障害者福祉	残存機能の活用もしくは回復
	作業療法士		
	言語聴覚士		
就労支援	ジョブコーチ	障害者福祉	就労に向けた環境との適合

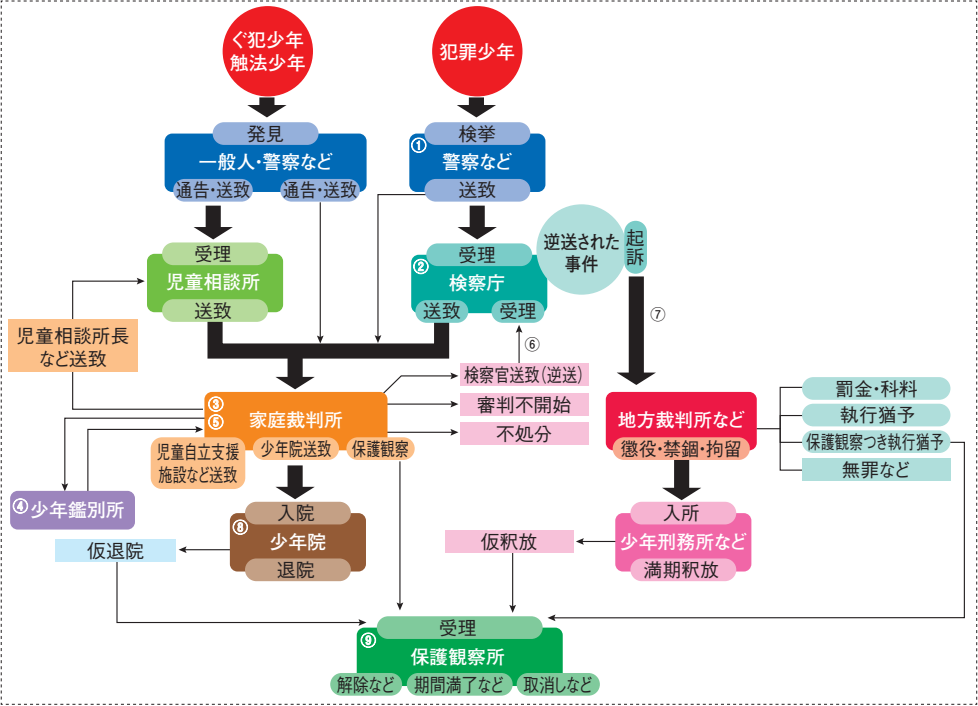


表 5 健康日本 21 による発達段階とその特徴	
発達段階	特徴
幼年期(0～4 歳)	生理的機能の自立, 人格・習慣の獲得
少年期(5～14 歳)	社会参加への準備, 精神神経機能の発達
青年期(15～24 歳)	生殖機能の完成, 大人への移行期
壮年期(25～44 歳)	仕事, 子育てなど活動期, 身体的機能の充実
中年期(45～64 歳)	身体機能が低下, 身体障害の増加, がんや心疾患の増加
高齢期(65 歳～)	人生の完成期, 老化, 健康問題が増加

表 6 エリクソンの発達段階の課題と危機		
時期	課題	危機
I. 乳児期	信頼	不信
II. 幼児前期	自律性	恥, 疑惑
III. 遊戯期 (幼児後期)	積極性	罪悪感
IV. 学齢期 (学童期)	生産性	劣等感
V. 青年期	自我同一性の確立	自我同一性の拡散
VI. 初期成人期 (成人前期)	親密さ	孤立
VII. 成人期	生殖性	自己吸収
VIII. 成熟期 (老年期)	完全性	絶望

(4) 非定型発達	・ 神経発達症群／神経発達障害群 (271) ・ 自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害 (ASD) (271) ・ 注意欠如多動症／注意欠如多動性障害 (AD/HD) (273) ・ 限局性学習症／限局性学習障害 (SLD) (271) ・ 発達性協調運動症／発達性協調運動障害 (275) ・ Asperger 症候群 (274) ・ 知的能力障害 (271) ・ アタッチメント障害 (275) ・ 早産, 低出生体重児 (275) ・ 成長障害 (FTT) (器質性, 非器質性) (275) ・ 非定型発達に対する介入及び支援 (271)
-----------	--